

令和3年12月24日

## 2学期終業式あいさつ

- 皆さん、おはようございます。校長の都丸です。
- 今学期も新型コロナウイルス感染症の感染防止対策により、放送による終業式とさせていただきます。皆さんの顔を見ながら話ができないことがとても残念です。
- さて、2学期が終了ということになります。同時に今年もあと7日で終わることになります。
- 毎年お話していますが、今年一年を振り返ってみて、皆さんは自分自身にとって、どのような年だったのでしょうか。
- 私は、「学びの年」、「成長の年」だと思っています。
- 今年の1月から振り返ってみて、コロナ禍というこれまでにない状況の中でありながら国としては、オリンピック・パラリンピックの開催、そしてワクチン接種、個人としては、メジャーリーガー大谷翔平選手のMVP受賞やプロゴルファー松山英樹選手のマスターズ優勝、将棋の藤井聡太さんは四冠獲得、真鍋淑郎（しゅくろう）氏のノーベル物理学賞受賞など、各種スポーツや文化の世界でも、コロナの脅威に負けず、頑張っていました。
- 一人ひとりが、自身の立場でできることを精一杯頑張ることで、世の中全体が、少しずつ明るい希望に向かい、未来への光が見えだしたと思います。
- そうしたことから私は、人々の心の強さと、世の中が明るい未来に向かうためには、一人ひとりが、今、自分ができることを精一杯頑張ることが大切だということを学びました。自らも強く、そして今、できることを精一杯頑張ることをやっていこうと決心がつき、これまで以上に前向きに進めた一年だったと感じています。
- それぞれの人が頑張る中身は違いますが、それぞれの立場でできることを粛々と続けていくことが大切だと思います。小さな力が大きな力へと結びつくことを感じた一年でした。
- もちろん皆さんも高校生として、このコロナ禍においてできることに精一杯、取り組んだことが現在に繋がったのだと思います。
- さらに、今年は、人との触れ合う機会が減少し、なかなか思うようなことができませんでした。しかし、ICT機器を活用して、物事を効果的に進めることや、短時間で済ませることなど、学んだことも多かったのではないのでしょうか。
- 来年は、是非とも、良いところは引き続き継続し、これまでできなかった必要なことを進めていければと思います。これまでと同じ、これまでに戻るということはありません。一歩進んだ考えを持って来年の目標を定めるよう

にしてください。

- 来年の干支は、壬寅（みずのえとら）です。壬寅を調べたところ、その意味は「厳しい冬を越えて、芽吹きはじめ、新しい成長の礎となる」ということだそうです。来年にふさわしい干支のような気がします。
- 来年は、皆さんが「新しい成長」に向かうための基礎づくりが必要となるようです。芽吹くか芽吹かないかは、皆さん自身の考え、行動によります。
- そのためにも、冬季休業期間中は、自分の来年の計画をしっかりと考えてみてください。
- 相模田名高校のキャッチフレーズは、「未来への挑戦 ～やる気、元気、勇気～」です。未来の自分に向けて考えてみてください。
- 1月11日の始業式には、皆さんと笑顔で会えることを楽しみにしています。